

【生薬名】車前子 *PLANTAGINIS SEMEN*

【起源植物】オオバコ *Plantago asiatica*

【科名】オオバコ科 *Plantaginaceae*



【別名】オンバコ、オバコ、當道トドウ、牛遺ギョウ

【薬用部分】成熟種子

【主成分】プラントザン、アウクビン、コリン、脂肪酸、粘液質

【薬性】気味は甘寒、帰経は肝腎小腸肺に属す

【効能】●利尿・通淋・止瀉・明目・祛痰止咳

●種子10～15gを煎服、咳止め、消炎、利尿、目を明らかにする  
煎じ液は粘っこい

●地域によって解熱、関節痛、心臓病、肋膜炎などに利用しているところもある

●車前子・車前草ともに呼吸中枢に作用して鎮咳し器官の粘液分泌を増加して去痰する

●赤痢菌・皮膚真菌の成長を抑制する

●腎炎の水腫に牛車腎気丸は応用される

●尿道炎や膀胱炎に利尿清熱剤として利用する

【出典】●主気瘤、止痛、利水道小便、除湿痺、久服軽身耐老。(神農本草経)

●(薬性歌)

●利水道、気癰淋疾、妊淋、滑胎、消腫。(一本堂薬選)

【備考】●全草10～15gを煎服

咳止め、利尿、膀胱炎、浮腫、眼病、健胃、便秘などに利用

●種子の粘液質は水を含むと膨潤するために種子を主成分としたオオバコダイエットなる食品が多数あります

【処方例】●清心蓮子飲、牛車腎気丸、五淋散、竜胆瀉肝湯

●明朗飲は眼疾一般に利用